

## 子どもの為の美術鑑賞教育について

萩原 延元\*

### On Teaching Appreciation of Art to Children

Nobumoto OGIHARA

#### 要 旨

図画工作科の授業は年間を通じて造形活動が主である。鑑賞授業については文部科学省の指導要項で、必ず各学年に取り入れる様に示されているのであるが、現在の小・中・高の授業では必ずしも十分にその学習が実施されているとはいえない。そこでPCを活用してパワーポイントによる新たな鑑賞学習法を進めることにより、生徒が美術への関心をより高めてゆけるものと考えた。

その実践として筆者は近年、私立川村小学校4年生、5年生に対してPCスライド「子ども美術館」と名付けた鑑賞授業を行った。その時に選んだ絵画・彫刻作品のスライド画像と図表をここに示し、その時に「子ども美術館」を鑑賞した生徒の感想文を原文のまま記載した。その文面から窺える事は、子ども達が優れた美術作品に子どもの眼をしっかりと持って向き合っているということであり、大いに楽しみながら鑑賞学習を経験できた様子が伝わると共に、芸術の世界に触れて、より感性の高まりをも認識することが出来る。

さらに小学校高学年及び中学生に適するように構成をした「デザインって何?」と名付けたPCスライド鑑賞学習について述べてみたい。特に生活デザイン領域に見られる季節・しるし・水・文字・公共物・紙工芸などをテーマとして、それに即しての作品を選び、子ども達に身近でかつ上質なデザインの世界を鑑賞学習できるように工夫した。

キーワード：子ども美術館，PCスライド，鑑賞授業感想文，デザインって何？

---

\*教授 美術工芸教育学

## はじめに

現在、図画工作科における学習指導では、概して美術鑑賞教育は最も疎かになりがちである。小・中学校いずれも年間の図画工作カリキュラムでは、造形表現としての絵画、粘土、紙工作、デザイン、工芸などを中心とした実技学習で満たされており、実際のところ美術鑑賞学習指導を実施しているのか、気になるところである。筆者は現在の美術教育においては、“造る喜びと観る楽しさ”の比重差が大きくなりすぎていると考えており、子どもの為の美術鑑賞教育法の研究とその実践をつみ重ねている。

2010年6月、東京の私立川村小学校の図画工作特別授業において、筆者は5年生対象の「子ども美術館」と名づけたPCスライドによる美術鑑賞を実施した。その前年には4年生対象にした「子ども美術館」と「デザインって何?」と名付けた鑑賞授業を実施している。

また2007年から2011年の現在において、川村学園女子大学附属保育園で造形教室の講師を担当しており、ここでは年間3回程度のペースで年中・年長組の子ども約40名の為に作成をした「こどもびじゅつかん」を積極的に取り入れており、とくに優れた絵本や図鑑、さらに若冲、北斎、広重や近代日本画の花鳥画の名作にある動物や鳥や花などもスライドにして、幼児なりの質問も受けて楽しくお話をしながら美術鑑賞を実施している。

この新たなPCスライドによる美術鑑賞の指導では、作品の解説ばかりでなく、子ども達の反応をよく見て、それらの作品に対する意見をしっかり述べさせる事が大切である。このPCスライド作成においては、ソフト・パワーポイントを活用する。スライド画像を拡大・縮小したり、ぼかしをいれたりするのも良い。とくに文字や記号そして音を取りこめる点が何より大きな学習効果をもたらす。ただしパワーポイントを活用しての鑑賞授業はそれまでの市販スライドに頼らぬ、教師自身の新たな専門知識と研究が必要になる事は云うまでもない。

なお前述の2010年に私立川村小学校5年生対象とした「子ども美術館」授業を体験した松・梅・竹3クラスの子どもたちに、鑑賞授業の感想文を記してほしいとの希望を伝えておいたところ、鑑賞授業の翌日に教室で書いた約100枚の感想文(A41人1枚)が手元に届いた。

その率直な感想文を読み、「子ども美術館」における新たな鑑賞指導法は、思いがけないほど子ども達が感心を示し、感性を高め、表現力をも生んで、より美術学習への関心を持たせられる事を確信したのである。現在の図画工作科の授業が造形活動にその多くの時間を充てている状況を見て、この新しい学習指導法を大いに広め、勧めてみる必要があると考えている。

## I. 美術教育における鑑賞授業の意義

1991年の夏、筆者は埼玉県教育委員会から南浦和教育センターにおいて、美術教育指導法講座の依頼を受けた。対象は埼玉県の公立高校の美術を担当する教員で、その時の20数名の参加者には美術教員として経験の長い人が半数以上はいた講習会であった。内容は特に日本美術に関する様々な学習で、特に日本画実技の講習も含めて夏季休暇中における4日間の集中講座を連日担当した。講座4日目の午前中に実技は終了して講評となり、その午後には1時間半ほど日本美術鑑賞のスライド（美術出版社製）をスクリーンで上映した。仏像・絵巻・水墨・障壁画・浮世絵・近代現代日本画などの名品を数多く選び、一つ一つの作品をゆっくり鑑賞しながら詳しく解説した。同時に生徒に対してはどのような言葉かけをして、鑑賞指導を進めるのが良いのかを講義した。

この時の講習会で主催者が行った4日間の授業のアンケートを後日、参照した。その結果は受講者全員が講習会に満足されていたが、その感想欄の中にはスライドによる鑑賞法の日本美術は大いに勉強になったとの意見が大変に多かった。また、美術作品を生徒にゆっくりと鑑賞させたことがなかったのを反省されていた感想もあった。教員として、日本美術の知識を十分にもたず、今日までの授業ではどちらかといえば西洋画を中心にして画集等で見せることが多く、講座にて示された日本美術の作品に関しては、ほとんど取り上げていないというコメントが数多くあった事が、強く印象に残った。この講習会に参加された多くの美術教員が大学時代に学んだのは油彩画、彫刻が主であり、生徒たちへの指導がその方向に向くのは必然であった。

その翌年再び埼玉県教育委員会の依頼により、公立中学校の図画工作科教員を対象とする講座を担当した。最終日のアンケートには、前年同様のコメントが多く見られたのである。今日においての中学・高校の美術の学習状況を考えると、やはり図画工作科における鑑賞教育では、日本美術に関する指導は全般的に見て、十分に行われてきたとは考えにくいのである。

その後、筆者が東京都私立初等教育学校協会会員であった（1994～2000年）頃、それまで研究会で議題になったことのなかった小学校の鑑賞授業に関する研究がテーマに取り上げられた。都内の美術館へ子ども達を引率し鑑賞授業を開こうという提案があり、1994年に都内の私立小学校20数校の美術科教員によるブリヂストン美術館（東京・京橋）見学会が実施された。この研究会は小学校教員の図画工作における指導研究として行われ、慶応義塾幼稚舎6年生50数名が参加した。同時に美術館で研究発表も兼ねる試みがなされた。このとき6名の研究者が選出され、私も1人の研究者として鑑賞指導を担当した。研究者はそれぞれ8人から10人の子ども達を担当、筆者は8人（男子7人・女子1人）のグループを担当した。

ブリヂストン美術館は西洋美術を基本とした印象派やエコール・パリの名品が主軸である。とくに近代彫刻作品群は他の美術館にはない作品も展示されている。いよいよ鑑賞がスタートし、どこの部屋から観ても良いことにした。筆者はやがて彫刻のコーナーに8人を集めた。それぞれの生徒に感想を聞くことにした。まず初めに直観で好きな彫刻作品を1つ選ばせ、次に其の彫刻の何が心に響くのかを述べさせる事にした。男子の多くは金色の鮮やかに輝く抽象彫刻（ブランクーシー作）に大注目して、“カッコイイ！”の声が上がった。ところが1人の女子生徒は母子像（マイヨール作）を正面からだけでなく、後ろからもゆっくりと良く鑑賞して、実に驚くほど見事な感想を述べたのである。その生徒は日頃から母親と一緒に美術館へ行く事があると話してくれた。ともかく彫刻についての見方を経験していたことや、こどもながらに作家の意図を考えての発言は、この美術館鑑賞において筆者自身が一番に感動を覚えたことであった。他の展示室ではセザンヌ・ルノアール・ピカソ・レオナルド・ダ・ヴィンチなどの作品の前で、筆者なりの意見と少しの解説を加えた。子ども達50数名は約1時間30分にわたりより優れた西欧の芸術に出会って、それぞれが大いに感動して、楽しみながら学習を終えた。ここに参加した20数校の教員は美術館見学の意義深さを改めて知った。

その日、鑑賞後にブリヂストン美術館会議室で研究会が開かれ、今回の鑑賞指導担当者からの熱心な報告がなされた。筆者の報告内容は、1人として飽きず鑑賞が出来て、子どもたちの真剣な眼差しが良かった事、彫刻作品に強い興味を持った子どもたちが作品に対して感想をしっかりと述べられた事、日頃から子どもと一緒に美術館を楽しむ家庭の教育は、子どもの感性伸ばす大きな力があると報告した。今回は慶応幼稚舎の6年生約50名のグループ鑑賞であったが、改めて各校の教員の多くが、自分達の生徒を引率する時の美術館見学学習の難しさについては、その実施の困難さを話していたのを筆者は記憶している。

しかし初めての東京私立初等教育研究会での美術館鑑賞会は、参加した多くの教員においては意義ある良い研究と体験になった。その後の各小学校ではやはり理想と現実の差が大きくあり、美術館での鑑賞学習が実現されたという報告はなかった。また川村小学校においても校外授業として都内での美術館見学は実施なされることはなかった。

このように小・中学校ではますます校外学習の美術館見学を行うことが困難に成っているのが実情である。あるとすれば修学旅行において国公立の美術館や国宝級の史蹟や寺院などを自主的に見学する高校生のグループを見かける事はある。とくに首都圏の小学校、中学校などの現在の状況を考えると、多くの課題があり美術館鑑賞学習を実施するのは難しいと思われる。美術館見学に関しては保護者に委ねているのが現状であろう。積極的に子どもを美術館に連れて行き、ゆっくりと時間を費やせる保護者は限られている。そのような状況を踏まえれば、

## 子どもの為の美術鑑賞教育について

PC スライド鑑賞法を研究して、毎年少しずつその学習を積み重ねることにより、子ども達の為の仮想美術館を学年ごとに実施して、美術館見学に代わる独自の鑑賞授業を行う必要があると考えるのである。

筆者は川村小学校において講師として6年間において毎週1回、3年生を担当した。この時は美術出版社製のスライドで鑑賞学習授業を年間1、2回程は仮想美術館として実施した。西洋美術に偏らず、日本美術からも仏像・彫刻・工芸などを含めたスライドを選ぶことを心がけ、日本と西洋の美術で構成をして鑑賞学習教育をしたのである。

## Ⅱ PC スライドによる美術鑑賞の新しい試み

小・中学生の図画工作科での美術鑑賞学習はいかなる学年においても大切であり、担当する教員は十分に子ども達に学習指導できるよう、常日頃から美術館などでの展覧会や画集などで作品研究をしておく必要がある。鑑賞学習とは美術館見学での鑑賞の体験をする事だけではない。教室内でも教室外でも鑑賞授業をすることはいくらかでも可能である。クラスの仲間の作品や図書館の画集をはじめ、街や家庭で見かける美しいデザインなどに見る色彩と造形の面白さを気付かせることにより、子どもの感性と、子どもならではの発見を促す事も出来る。また友達と造形共同制作をしながら鑑賞力を身につける場合もある。

これからの美術教育での図画工作科学習においては、“造る楽しさ観る喜び”を備えた、子どもにとって魅力のある美術授業になるように進めてゆくことを提唱したい。年間カリキュラムに時折新しい方法によるPC スライド鑑賞学習を積極的に取り入れて、少しずつ新たな美術学習を積み重ねることで、子どもたちの為の美術教育が実り大きなものとなってゆく事が望まれるのである。

ここにPC スライドによる美術鑑賞学習での実践指導の為に、筆者が構成・制作を手掛けた2種類の授業用CDの内容について述べておきたい。その内の一つ「子ども美術館」と名付けて作成したものは、西洋の絵画と日本の絵画を中心としているが、そのほかに、はにわや仏像・彫刻など名のある造形作品と優れた絵本から選び抜いた画像を取り入れて構成している。その内容については2011年9月に川村学園女子大学大学院人文科学研究科から発行された「小学校教員養成におけるコミュニケーション能力を高める教科教育法に関する研究の第Ⅱ章・小学校教科教育法の試みにおける図画工作科の指導」、「子ども美術館」において詳しく述べているため、後述する子ども達の鑑賞授業の感想文をのぞいて、その多くはここでは割愛しておく。

もう一つのテーマ名「デザインって何？」と名付けて作成した美術鑑賞学習用のCDに就い

て述べておきたい。これはまずあるテーマを決めて、それに即したデザイン図像を選んで構成したものである。内容としては子ども達にも良く知られているものも選択の基準にしている。例えば“しるし”のテーマでは商標や国旗、公共デザインや生活工芸に見られる美しい形や色彩のものを多く示している。“ファッション”のテーマでは美術的にも優れたきものなどの染織品・洋服のデザインを示し、さらには乗り物や行事の飾りや和菓子、水をテーマにした様々なデザインを選んでいく。また美術的に評価が高い絵本から、動物の体に見る模様や街中にあるデザインなどを画像に撮り入れて構成している。スクリーンに映し出された作品はゆっくりと丁寧に見せる。担当教員はその画像に関する知識を予習しておき、その話を織り交ぜつつスライドによるデザイン作品の鑑賞を心ゆくまで楽しませるのである。「子ども美術館」においても「デザインって何？」でもスライド画像を見て大いに興味を抱いたら、友達と楽しく語りあうひと時を過ごさせるのも良い。子ども達は心の深くにその作品の良さと美しさを記憶して、感性をより高めることが出来るはずである。その画像をきっかけに、子ども同士のコミュニケーションが生まれたら更に良い。教員はじっくりと見守り、美術鑑賞を十分に楽しめるように学習環境を工夫すればよい。学内での鑑賞の大きな利点は、感動を直に捉える事ができ、さらに友達の感想や意見までも知り、良い刺激を受ける点にある。作品についての知識を学んだ教員の指導が適切であれば、学習が楽しくなる“活きた授業”が展開されるであろう。

さて、このスライド作品の選定において特に薦めておきたいのが優れた日本の美術作品を選んでおくことである。それは子ども達が優れた日本画作品の多くに登場する動物や植物などの生き物たちの姿に深く感動するからで、日本画の特質でもある形・色彩がしっかりと認識できる作品が適しているのである。もちろん油彩やパステル絵画、彫刻、工芸の作品それぞれにおいても感動を与えられるのは数多くあり、同じことが言える。

この美術鑑賞学習で感動した作品とのふれあいが、その子にとって何か大切な出会いともなるかもしれないのである。そして子どもはこの鑑賞授業において友達と楽しく語りあうことにより、いっそう深く喜びを分かち合えるはずである。ここに示した「子ども美術館」、及び「デザインってなんだろう？」を用いたPC鑑賞学習の授業法は、必ず子ども達の知力・感性・表現力をより良き所に高められる手助けになると確信する。

これらのスライド作成で用いたデザイン作品について、テーマ別に表-2. に示しておく。

### Ⅲ スライド鑑賞学習の意義その感想文について

#### Ⅲ-1 スライド学習の意義について

川村小学校での特別授業・美術鑑賞では、情操教育の一環として、また筆者自身の児童教育研究として、川村小学校の4年生、5年生を対象とした美術鑑賞「子ども美術館」を2009年、2010年に実施してきた。その結果としてPCによるスライド鑑賞法は予想を越えて、大いに楽しんで学習ができる美術授業の一つになることが明らかとなった。子ども達にとっては、優れた作品を美術館の代わりに教室で見ることが、十分その知と感性を豊かにして、表現力も養える鑑賞学習となった。美術教育という形で、子どもの発達をさらに育む事が可能なのである。スライド作品を見ながらの感想や、意見を述べ合うことにより、友達や教員とのコミュニケーションも同時に高められる。教育的な効果と子どもの美術に対する興味を同時に伸ばせる事が明らかとなったのである。

下記に示す子ども達の感想文は、筆者が2010年に川村小学校で行った5年生対象の美術鑑賞授業“子ども美術館”において参加した児童約100名に対し、その翌日に5年生3クラスの担任をお願いをして“アンケート”を書いてもらったものから抜粋したものである。参加者全員がA4ー1枚へ率直に飾らずに、心をこめた感想文を提出してくれた。

#### Ⅲ-2 感想文——川村小学校5年・図画工作科 鑑賞教育

2010年6月に行った「子ども美術館」の授業に対するアンケートの調査結果を、生徒自身の感想文を原文のままに紹介する。A41枚を用意した。約100名の感想文から10名分を抜粋。

**質問内容：**「授業のお話とスライドの中で、よく覚えていること、関心があること、感動したこと、なんでもいいですから簡単に感想を書いてください。素直な気持ちをお願いします。」

- ① 不思議な絵の部門で、百物語や、最後に見たほうおうの絵が印象に残りました。またルノアールのえがくきれいな女の人の絵もすてきでした。絵は題名も工夫がされていて、画家さんの気持ちが伝わってきました。とくにピカソの「初めての雪」は、ありのままの様子がよく分かるなと思いました。そして、日本人の画家の中で最も有名な北斎の絵は、迫力があって絵を見ただけで情景が伝わってきました。古くから日本にある浮世絵は、和紙にえがかれていて、日本独特の描き方だなと思いました。とくに、目が印象的でした。全ての絵に共通しているのは、“目”が力強いことだと思いました。来年も楽

しみにしています。(梅組 M・S)

- ② 不思議な絵で、ふつうの女のひとに見えるけど、よく見たらもう1人、おばあさんがいてビックリしました。私はおばあさんを見て、(魔女みたいでこわいなー。)と思いました。もう一つの作品、フォーク、私はフォークを見て、(これ3本あるけど、どこからでてきてるのかな?)と思いました。あと、百物語で「へび女」がとてもこわかったです。とてもワクワクしたりドキドキしたりのおもしろいものを見せてもらいました。私は毎回、荻原先生の図工はおもしろいなーと頭の中でぐるぐる回っています。(梅組 R・N)
- ③ 「百物語」を見たら昔の記憶がよみがえりこわかったです。かつしか北斎のほうおうはとても神び的で不思議な気持ちになり、北斎は想像力ゆたかだなあとおもいました。(梅組 S・K)
- ④ 私は、不思議な絵の内の、鳥にも見えて、横にしてみると、うさぎにも見える絵が一番印象に残りました。ほかに、昼なのに、湖の中を見ると、夜になっている絵や、トリックアートも面白かったです。私は、ピカソの絵と言えば、図形などを使った人物画などしか分からなかったので、「初めての雪」というきれいな女の子の絵をかいていたことを知って驚きました。「子ども美術館」おもしろかったです。本当にありがとうございました。(梅組 A・S)
- ⑤ ピカソの「初めての雪」などがきれいで、とてもだいすきです。不思議な絵は、こわい絵や楽しい絵があって、とても不思議がたくさんでした。宇田てきそんが描いた絵がすごく心にのこっています。色がすごい色々でとてもすてきでした。ドイツ人の描いたうさぎの絵が本物だと思っていたら自分で書いた絵だと思っていたのでびっくりしました。(竹組 R・U)
- ⑥ 最初の方にあった、カラスととび、あの表現のしかた、色ずかいすてきでした。うさぎにも見えて、鳥(かも)にも見える絵、おもしろかったです。あと、人で、人の顔がかいてあった絵も少しこわかったです。みじかい時間だったけど、とってもおもしろかったし、絵も少し覚えました。(竹組 K・T)



#### 子どもの為の美術鑑賞教育について

- ⑦ 美術がとてもよくわかりました。関心しました。感動しました。勉強になりました。とても覚えることが出来ました。(竹組 M・S)
- ⑧ 私が好きな作品は、昼と夜です。白い鳥の間に黒い鳥がいるなんてびっくりしました。ほかにも鳥にもうさぎにも見える絵やうつわに人の顔の形があるなどとてもおもしろい作品ばかりでした。(竹組 A・N)
- ⑨ 今回心に残ったものは北さいの絵です。油絵とはちがう、独特な色さいでした。しっかり、はっきり濃く描いてあるものもあれば、うすくさらっと描いてあるものなどたくさんあって、とくに心に残ったのが、ほうおうという作品です。空想であそこまで描くのはすごいと思いました。(竹組 Y・N)
- ⑩ 私が一番感動した絵は「青衣の女」です。あの絵はおなかの大きい女の人が手紙を読んでいる絵でした。とてもデッサンが美しく本当にその場に生きているようでした。あの女の人が詠んでいる手紙はいったい誰から来たのかとても気になりました。他にも「初めての雪」「百物語」「風神雷神の絵」、三匹のこいの絵、野うさぎの絵、ふしぎなポーズをしている猫の絵などいろんな絵がありました。(竹組 S・I)

#### IV 感想文考察

約 100 枚の感想文全てに、子ども達が素直に心から作品に感動している様子が満ちあふれていた。この鑑賞授業は昨年度 4 年生の時にも体験した 3 クラスで、あえて、昨年度に見せた作品を数枚加えておいたが、みなその絵画作品を実によく覚えていた。とくにピカソの作品の「初めての雪」について、名作は題名も味わい深くて良いと筆者が話したことを、数多くの生徒が文に記していた。今回は北斎を 3 点入れたが、特に肉筆の「鳳凰」に関心が集まった。北斎の絵や日本の絵には目に力強さがあると記している。また「百物語」ではその想像力の豊かさに感心を寄せている。

浮世絵の國芳が描いている、不思議な男の顔をはじめとして、鳥に見えたら次はうさぎに見えるトリックアートが人気があり、なかでもエッシャー作品の「昼と夜」は、白と黒の鳥が交差しておきる不思議な絵であるが、同時に素敵な絵としてもみているようだ。家の周りは夜なのに空は明るい昼間というマグリットの絵も相変わらず注目され、その不思議さを目に焼きつ

けているかのである。

西洋の人物画では、大人同様にフェルメールの人気の高い、「青衣の女」の手紙を読むしぐさと、妊娠しているその姿に気がついた数人の子どもが深くそれを理解し、感想を寄せた。ルノアールの「少女」も大好きだと意見が数枚見られていた。スライドが映し出されてしばらくしてその絵について筆者が話したことを実に良く聞いていて、大変に驚くことがよくある。浮世絵も生徒たちに好まれているが、とくに歌麿の高島おひさが描かれている3人の女性の絵について、現代なら人気のモデルさんだと話すと、それが大いに気に入ったようで、何人も歌麿の美人画を選んでいく。

今回、宇田萩郎の代表作「淀の水車」に大変感激し、特に群青色の美しさを書いた生徒が何人もおり、この古風な日本画の良さを子どもたちは理解している。宗達の「風神雷神」を昨年授業でみましたが、やはり素晴らしいと思いました、とそのかっこよさを2人が書いている。蕪村のからすと鶯の色の良さを記している文は、子どもながらに洗練された墨絵の魅力を感じたことを知る。いずれにせよ、子どもたちは名作をみて驚くほどに感銘を受け、素直な気持ちでその思いを綴っているのである。

- \* これらの図像を用いて作成したCDは授業においてのみ使用しているものである。
- \* 2010年・2011年のスライド鑑賞授業において使用した作品を表-1.にまとめた。

## おわりに

現在、小・中・高等学校における図画工作授業における指導では造形活動が主であり、鑑賞活動は造形活動に比べて極めて少ないのが実情と云えよう。それぞれが両輪のようにして進んでゆく学習が望ましいと筆者は常々考えているのである。私立川村小学校で実施した5年生の図画工作授業における鑑賞授業での子ども達の感想文100名の内容をみれば、ここに提案する新しい方法でのPCスライド鑑賞による教育指導法をさらに広めて、発展させる意義は明らかである。一つの作例として示した「子ども美術館」、「デザインって何？」の鑑賞学習法で授業を進める場合、もし美術指導において教員が美術の知識不足を心配することはない、子ども達に画像についてお話をする際にもここで記したように、PC操作の活用により文字も入るので、画集などの作品の解説などを利用しての僅かな準備があれば、さほど難しい問題はない。それよりも作品を選ぶ目が大切で、子ども達に見せたいテーマをしっかりと決めて、美術資料は学内の図書館で集められる画集や写真集、場合によればインターネット検索より始めれば良

## 子どもの為の美術鑑賞教育について

い。ともかく子ども達に素敵な作品を見せて上げたいと思う事こそ大切である。こどもがそのスクリーンに現れた図像に対して夢中で鑑賞し、時には感動を生み、自分なりに感想も述べられる授業になるのである。

「子ども美術館」,「デザインって何?」は世界、日本中の優れた作品や身近な社会と生活の中に見られる美しいものを、クラスのみならず楽しく学習できるように工夫をした、仮想の美術館なのである。この授業を実践してみて改めて思う事は、子ども達は子どもなりにとても深い理解と関心を抱き、真っすぐな気持ちで美術を楽しんでいることを知った。

図画工作の造形活動はもとより、美術作品による鑑賞授業が子どもの知力と感性を大いに刺激して、子どもの心の発達と生育にとり有意義となり得ると確信した。

今後、“造る楽しさ・観る喜び”の美術教育、図画工作授業のさらなる充実が求められる。

## 参考文献

- 京都国立博物館編集、『浮世絵名品展』図録、京都国立博物館、1991  
東京国立近代美術館、『ルネ・マグリット展』、図録、東京新聞、1988  
「太陽」編集部、『江戸の絵画入門』、『別冊太陽』、平凡社、2007  
西岡文彦、『名画の歴史』、河出書房新社、2001  
古田 亮、『琳派』、国立近代美術館、2004  
北海道立近代美術館編集、『日本美術の光華』、北海道立近代美術館、2007  
美術出版社編集部、『西洋美術史』、美術出版社、1992  
小林 忠、『浮世絵の歴史』、美術出版社、1998  
芳賀和美、『日本画の名作』、『三彩』・創刊500号記念特集、三彩社、1989  
大倉集古館、水野美術館、茨城県天心記念五浦美術館他編集、特別企画展「大倉集古館の名宝」図録、2007  
恵 俊彦、『歌川国芳 生涯と作品』東京美術、2008  
朝日新聞社編集、『美術特集 福田平八郎』、『アサヒグラフ別冊』、朝日新聞社、1981  
朝日新聞社編集、『美術特集 奥村土牛』、『アサヒグラフ別冊』、朝日新聞社  
朝日新聞社編集、『美術特集・山口華楊』、『アサヒグラフ別冊』、朝日新聞社、1977  
伊藤彌四夫、『アートエデュケーション』、建帛社、2003  
奥村土牛、『わが身辺抄』、日本放送出版協会、1978  
河北倫明、『奥村土牛』、日経ポケットギャラリー、日本経済新聞社、1991  
小林頼子、『謎解きフェルメール』、新潮社、2003  
佐々木真治、『こだわりを生む楽しい造形活動・3つのポイント』、学事出版、2006  
集英社編集部、『奥村土牛・徳岡神泉』、『現代美術全集』、集英社、1975  
集英社編集部、『小林古径』、『現代美術全集』、集英社、1974  
集英社編集部、『東山魁夷』、『現代美術全集』、集英社、1973

萩原延元

- 『小学校教育養成における「コミュニケーション能力」を高める教科教育法に関する研究』, 川村学園女子  
大学大学院人文科学研究所・教育学専攻初等教育学領域教育養成研究会, 2011
- 「太陽」編集部, 「近代日本の画家たち」, 『別冊太陽』刊 154, 平凡社, 2008
- 高木 実, 『ジュニア地図帳・子ども世界の旅』, 平凡社, 1966
- 高階秀爾, 『カラー版 西洋美術史』, 美術出版社, 1991
- 谷川 渥, 『だまし絵』, 河出書房新社, 1999
- 辻 惟雄, 『日本美術の歴史』, 東京大学出版, 2005
- 根津三郎, 『若い教師の為の図画工作科授業相談』, 明治図書, 1986
- 野地耕一郎, 石井 大, 『塩出英雄展』, 練馬美術館, 1999
- 杉山 寧・野地耕一郎, 『現代の日本画 (8) 杉山 寧』, 学習研究社, 1991
- 日本経済新聞社, 『北斎 東西の架け橋 没後 150 年記念』, 図録, 1998
- 東京国立近代美術館・日本経済新聞社, 『小林古往展』, 図録, 2005
- アークシステム株式会社編, 「自由に使える 家紋大図鑑」, グラフィック社, 1996
- 「スーパーエッシャー展 ある特異な版画家の軌跡」, 図録, ザ・ミュージアム, 2006
- 朝日新聞社事業本部大阪企画事業部編, 「江戸の誘惑」, 図録, 朝日新聞社, 2006
- 種村季弘・赤瀬川原平・高柳 篤, 『図説 アイ・トリック』, 遊びの百科, 河出書房新社, 2001
- 東京国立近代美術館, 『ルネ・マグリット展』, 図録, 東京新聞, 1988
- 西村和子, 『マグリットのはてな?』, 博雅堂出版, 2010
- 美術出版社編集部, 『美術の歴史』 巻 1, 美術出版社
- 美術出版社編集部, 『美術の歴史』 巻 2, 美術出版社
- 文英堂編集部, 『国旗で知ろう! 世界の国々』, 文英堂, 1992

子どもの為の美術鑑賞教育について

表1 「子ども美術館」

2010年・2011年 スライドによる鑑賞授業（川村小4・5年生、110名）に取り上げた美術作品一覧

テーマ1. 子どもが主に描かれた絵		④加藤栄三	花火
作家	画題	⑤小野竹喬	京の灯
①メアリー・カサット	母子	⑥東山魁夷	京洛風景（京の山々）
②上村松園	母子	⑦奥村土牛	精進湖（富士山）
③ピカソ	初めての雪	⑧山口華楊	紅葉
④岸田劉生	麗子像	テーマ4. 浮世絵が面白い！	
⑤清長	習い事（習字）	作家	画題
⑥豊国	三味線のお稽古	①歌川広重	名所江戸百景水道橋
⑦作者不詳	松崎天神絵巻	②歌麿	・高鳥おひさ ・ビードロを吹く女
⑧フェルメール	青いターバンの少女		
テーマ2. 動物,植物,自然の風景や花		③ゴッホ	タンギー爺さん
作家	画題	④広重	あたけの大橋（雨）
①長澤蘆雪	・龍図	⑤北斎	・神奈川沖浪裏, ・諸国滝巡り
	・虎図		
②伊藤若冲	鶏	テーマ5. 不思議な世界の絵もあるよ	
作家	画題	作家	画題
③杉山 寧	孔雀	①縄文土器	火炎土器
④菱田春草	黒き猫	②仏像	阿修羅
⑤奥村土牛	犬	③ロダン	考える人
⑥須田国太郎	黒い犬	④ダヴィンチ, コロー	モナリザ, 真珠夫人
⑦山口華楊	飛火野（鹿）	⑤アルチンボルト, 國芳	奇妙な寄せ絵
⑧奥村土牛	仔牛	⑥俵屋宗達	風神雷神図
⑨塩出英雄	小禽涅槃図（小鳥）	⑦ムンク	叫び
⑩マチス	金魚	⑧ルドン	光の横顔（版画）
⑪アューラー	うさぎ	⑨マグリット	光の帝国
⑫蕪村	からす	⑩マグリット	アンハイムの領地
⑬奥村土牛	こい	⑪エッシャー	白と黒の鳥の群れ
テーマ3. 美しい日本の風景		作家	画題
①奥村土牛	醍醐の桜	⑫北斎	鳳凰
②福田平八郎	さざ波	⑬北斎	百物語
③宇田荻郵	淀の水車	⑭福田繁男	3本のフォーク
		⑮作者不詳	・娘とおばあさん ・アヒルとうさぎ

表2 〈デザインて何?〉 スライド鑑賞の内容

テーマ1. 国旗のデザイン		テーマ2. 水のデザイン	
国旗	内容	分野	内容
①世界の国旗	88ヶ国の旗	①着物の文様	渦, 水紋
②世界の国旗	アメリカ, 日本, カナダ	②縄文土器	渦文様
③世界の国旗	フィンランド, フランス	③古代エジプト	絵文字
テーマ2. しるしのデザイン		④江戸の絵画	北斎の「神奈川冲浪裏」
文様	内容	⑤現代の日本画	福田平八郎の「漣」
①日本の家紋	川村学園校章	テーマ6. 季節のデザイン	
②会社のマーク, 商標	ampm	分野	内容
③会社のマーク, 商標	ANA 全日空のマーク	①日本の菓子	四季の和菓子
④公共のデザイン	国際空港の絵文字	②子どもの行事	端午の節句
テーマ3. 文字のデザイン		③子どもの行事	七夕まつり
デザイン対象	内容	テーマ7. 切り絵のデザイン	
①漢字	楽しい漢字のデザイン	分野	内容
②カード	プレゼントカード等	①マチスの切り絵	人, 植物
③英字	英文字のデザイン	②日本の伝統切り紙	家紋の紋切
テーマ4. ファッションデザイン		③七夕の切り紙	くさり等
デザイン対象	内容		
①カジュアルな服	服種のデザイン変化		
②色の組み合わせ	色による印象の変化		